

# 誰もがゆるやかにつながる共生社会づくり

～公民館と社協が連携した重層的支援体制を考える～

「地域共生社会」の構築に向け、これまで以上に教育と福祉やまちづくり等の分野との連携が必要となっています。そのため、社会教育と地域福祉の連携した地域づくり、具体的には公民館と社会福祉協議会との連携による「重層的支援体制」について考え合いました。



## 講義 「誰もがゆるやかに つながる共生社会づくり」

信州大学経法学部応用経済学科教授

井上 信宏 氏



### ○ 事例研究

コーディネーター 信州大学経法学部応用経済学科教授 井上 信宏 氏

- |       |                    |         |
|-------|--------------------|---------|
| 事例発表① | 富士見町社会福祉協議会地域福祉課主任 | 北村 公典 氏 |
| 事例発表② | 松本市四賀地区民生児童委員協議会会長 | 山岸 勝子 氏 |
| 事例発表③ | 松本市地域づくり課課長補佐      | 床尾 拓哉 氏 |

### 〈受講者アンケートから〉

- 現在日本が抱えている事、今後自分の生き方も含めどのように行動していかなければならないか考えさせられた。(市町村)
- 生活採集の話、フューチャーデザインの考え方が大変参考になりました。(一般)
- 公民館と社協との連携について考えていきたい。(公民館)
- 携わる人が社協、民生委員、行政と異なるが、目指す視点や方向性は同じ。(社協)
- 住民同士のお互いさまの助け合いは、これから大切になってくる。(公民館)
- 課題さがしにとられるのではなく、暮らす人の声を聞き、みんなで話しながら一つやってみる、うまくいかなかったら、またみんなで話して工夫してみる。(諸団体)

